

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和5年度 第1回草津市社会教育委員会議
日 時	自 10時00分 令和5年7月6日(木) 至 11時30分
場 所	草津市役所4階 行政委員会室
出 席 者	委員：山口委員長、長橋副委員長、藤澤委員、内田委員、奥野委員、 山元委員、澤村委員、矢野委員、中瀬委員、出呂町委員、 佐藤委員、武田委員、福田委員 事務局：藤田教育長、増田部長、岸本総括副部長、二井副部長 生涯学習課 古川課長、廣政課長補佐、河合主事 傍 聴 人：0名
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有(別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無

1. 【教育長挨拶】

2. 議事

1) 令和4年度の取組みについて

資料1に基づき、事務局説明

【委員長】

昨年度の内容についてとりわけ、こちらは、この会議全体の話とあとは読書ボランティア人材養成講座関連事業のそれぞれについてのお話でした。

会議では前回、A委員からご報告いただきまして今触れていただきましたけども、ラインなども活用しながら、その後の活動への手掛かりを作っていたいております。

また、B委員からボランティアの定義についてもっと広く考えながら、読書ボランティアを手掛かりにしたさらなる発展、充実を社会教育という観点で広げていく必要があるのではないかなど、皆さんから活発なご意見いただいたことを思い出しております。

実際、読書ボランティアの人材養成の結果、幾つかの場所で活動が広がってきています。

そうした取り組みについてのお話がありました。

皆さんからいかがでしょう。

【C委員】

すいません恐縮ですがちょっと一つだけ、イベントがちょっと大路区周辺に偏っている感じがあり、他の地域ではそのような活動の推進等は特にはなさってなかったのか、もしくは周知がされているのか1点気になった点でございますがどうでしょうか。

【事務局】

少しずつ活動の場を広げていってマッチングをしていく中で、幸いにもスーパーさんにお声がけをいただく機会がありまして、今のところ大路区に集中している状況ですが、今後少しずつでも活動の地域を広げていきたいと考えているところです。先般別のスーパーさんから、活動できる場の提供について打診をいただいたところで、具体的にこういったところでやってはどうかというご提言などもいただきながら考えていければと思っておりますので、ご意見を頂戴できればと思います。

【C委員】

具体的に今すでになさっているところから広げるっていう展開が、一番手っ取り早いかなと思いますので、そこら辺から広げていただくといいかなと思います。

また、参加者のうち20代30代が少ないということで、小学校の中で読み聞かせボランティアさんが20、30代の方もいらっしゃるかなと。40代の方もいらっしゃいますけど、その方たちの参加するというのがあまり見られないのかなとちょっと疑問に思ったのですが、そのあたりの声掛けはいかがでいらっしゃいますか。

【事務局】

小学校中学校の読書ボランティアさんへの周知というのはまだまだ不十分でございます。読書ボランティアさんからも、読書のことや、読書ボランティアに関して、1度会合を開いてはどうかと、お声がけをいただいているところでございます。

そういった機会をとらえまして、継続的に続けていくことで、学校の方にも活動の場を広げていくというのは、当会議の話題の1つでもございましたので、そういうふうな展開をできればと考えております。

まずは、会合を開いて、現状どのような形になっているのかとか、現状把握から始めていきたいというふうに考えております。

【委員長】

立命館大学ではボランティアセンターの機能を学生の学びと成長へと拡張して、サービスマスラーニングセンターという組織があります。そうしたセンターなどを中心にして20代の中でも学生に対してはうまく浸透していけるよう工夫して参ります。

D委員はそのセンターの学生スタッフを担っています。若い人への広がり、多様な世代への広がりという観点で何かご意見ありますでしょうか。

【D委員】

前の2月の会議でも同じようなことを言ったかもしれないですけど、私はサービスマスラーニングセンターで今、学生コーディネーターという役割で活動していて、サービスマスラーニングセンターにはボランティアに興味のある学生とか結構訪れたりするので、そういったと

ここで読み聞かせのボランティアのチラシをいただければ、教育に興味のある学生はたくさんいるので、小さなところからチラシとか呼びかけとか行くと、もう少し広がると思います。

【委員長】

大学内ではボランティア情報と教育実習を含めた教職課程の学生たちへの情報はそれぞれ別組織に分かれて担っています。しかし、学生に届けば学生自身が横につながってくれます。ぜひ、学生から広がる可能性を追求していただけることを期待しています。

また本日は令和5年度事業について検討する議題が予定されています。改めて令和4年度事業の到達点と課題を踏まえた検討を行うためにも、読書ボランティアの現場を担われた皆さまからのリクエストや、ご提案などあればぜひお寄せください。

【E委員】

委員としての参加団体がまちづくり協議会ということで、志津のロクハ公園を皆様ご存知ですよ。すごくすてきな都市公園です。そこで、去年の11月7日に「ふれあい広場」といって5000人位来ていただいた祭りで、ロクハ公園の良さを生かそうということで、会議机ほどの書架を作りました。キャスターを付け、引っ張ったら機関車みたいに連結してゴロゴロと動く形で。それに本を沢山展示しながら、芝生の中で子どもたちが本を読むという運営企画でした。その引受団体が志津の「本大好き会」という団体です。イベントの参加、開催について、各地域でその努力はしています。またBBS会という大学生中心のボランティア団体にも協力していただいて子どもたちの読み聞かせに関わっていくような雰囲気づくりと環境づくりをしています。それが、資料のイベントに記載されてないですね、本年度も11月5日に「ふれあい広場」で同じような空間を作って、本に関わる空間、環境をうまく使いながら、本と一緒に子どもたちも育てていきたいな、我々もそれに関わりたいな、という思いがあるんだけど、この今事務局が示したイベントの中にね、各地域ごとに努力しているその方向性が記載されてないですね。そこをちゃんとひろって欲しいなという思いがあります。

また一つは社会教育よりも、様々な本と関わっていくことともう1点だけあるんです。志津には里山がたくさんあるんです。その中で本が読めるようにね、総合的にいろんな活動の中に読書、本と親しむ空間を作りつつあり、そういう活動も入ってるんですよ。だから、もう少し大きな観点から、この本っていう読書ないしはそのボランティアのバックアップも含めて、捉えて欲しいんですよ。地域の良さ、草津の良さを活かしたかたちの中でなができるのっていうところ、一歩踏み込んで欲しいな、という感覚はちょっとありますね。

【委員長】

前回の会議では読み聞かせるという言葉がどうしても「する」「される」の関係を固定化してしまう表現になっているのではないかと個人的な意見を申させていただきました。今のお話で、空間の性質によって立場や方法を固定してしまうこともあることを改めて気づかせていただきました。

先ほど挙げていただいたロクハ公園の他にも、例えば里山は今となつては非日常の場かもしれませんが、読書ボランティアは生活の延長にある環境で多彩な取り組みができるでしょう。

本日の資料ではイベント的な要素の強い場、つまり主催もしくは積極的にご相談が寄せられたことへのリアクションとして行われた場の活動が公的な記録として残されています。ただ、今後はそうして公的に位置づけられた活動の周辺の取り組みについても何らかの形で把握していくことも必要かもしれません。ただ、例えば「認定事業」といった枠組みを作ってしまうと、読書ボランティア講座などで広がりもたらされる中で生まれる活動が思わぬ制約を受ける可能性がないか、ということが気がかりです。もちろん、そうした取り組みの基礎として、少なくとも二期にわたって実施してきた読書ボランティア講座があること、またそうして講座後の活動が推進されていることが確認できれば、読書ボランティアが草津の一つの文化になりうるでしょう。

【F委員】

子どもと関わる中で地域としてどう取り組んでいくかというのもあると思いますし、学生の力を使って、地域の団体の方とも協力していく必要があるのと、若い人たちにもっと広げていく。課題にもあったと思うのですが、知ってもらわないと、そもそもこの活動自体を知るきっかけにもならないし、参加することにも繋がらないと思うので、よりもっと広報の周知の仕方を含めて、大学とか、いろいろ含めて連携していく必要があるのかなと思います。

【委員長】

今ありましたように、地域の子どもたちに学生たちが少し先輩のお兄さんお姉さんとして結び目になって活動をつないでいくこともできるでしょう。そうした展開の過程で先ほどのE委員の話が具体化され、或いは日常化の中で生まれてくることを期待しています。

【G委員】

先ほどの公園の本のイベントですが、別団体で同じ本のスペースに参加させていただきました。BBSさんの力もすごく、若い方がお話とかも読んでくださって、楽しい時間を過ごせましたし、志津は子どもさんの数が多いので、本当にたくさんの子どもたちがそこに集まって、お兄さんお姉さんとか、あと私ぐらいの年齢、また上の方がおはなし会もそれぞれ楽しんでおられた。そういう空間がいろんなところでできればいいのかなと思っていて、コロナ禍になってから、だいたい本の読み聞かせとかお話し会は室内で行われるイメージがあったものがコロナでできなくなって、私は3年前から公園とかで主にするようになったのですが、今年度も南草津駅の東山道公園とか、先ほどの志津や、de愛ひろばさん。

今度そういう機会もいただくことができましたし、本のイベントが、雨とかの影響があつてちょっと大変ではあるのですが、いろんな場所でできるっていうところを、また市の方も支持していただいて、また応援いただけたらいいかなと思いますのでよろしく願いいたします。

【委員長】

副委員長、何か昨年度の動きで、コメントがあれば。

【副委員長】

昨年度の動きのコメントというか、いくつか論点があるような気がするのです。

つまり読書を通した活動の広がりの部分と、成果と課題に書かれているように、養成講座への参加をどうするという話という部分があるような気がします。この養成講座への参加に関しては、養成講座でいったい何を養成しているのかという部分が、どういう感じで皆さんに伝わっているのかと思います。

つまりこういう養成講座をやる場合には、大きく二つあると思うのですね。

一つは何か資格関連ということで、この講座修了者は何々ができるという類のもの、もう一つはスキルアップ的なもので、資格みたいなものではないけれども、こういう養成講座ではこういう力が身について、今までやったことにもっと磨きがかかるという類のものだと思うのですが、この講座は後者の方だと思うのですよね。読書ボランティアは別に特別の資格がなくてもできるようなものだと思うので、この養成講座に参加というようなことを考えてみると、このボランティアに参加することから、もっとこういう力を身につけたいなというような動機を形成するということが一つ道としてあるというふうに、この各地でいろんなイベントで、本の活動を積極的にされていることを聞いて思いました。

【委員長】

こうした取り組みが着実に展開するように活動の裾野を広げることと、より深掘りをしていくことの両面が、活動が継続していけば出てきます。そうした将来への展望もまた重要というご指摘と受け止めました。

ではこの流れに乗りまして、資料の2-2、令和5年度の取り組みについての議論に移らせていただきます。こちらまず事務局からご説明をお願いいたします。

2) 令和5年度の取組みについて

資料2に基づき、事務局説明

【委員長】

この委員会の体制も折り返し地点に入っておりまして、あと1年で私たちの任期は終了です。そうした中、秋に講座を実施するという提案がありましたので、皆さんからご意見寄せていただければ幸いです。

【B委員】

令和5年度に向けて意見といたしますか、先ほどスーパーを中心にいろいろな活動が盛り上がりを見せつつあるように感じました。もし可能であれば、老上西にできた新しいスーパーのあたりが、新しい住民の方がきて、そういった方々に向けてのアピールということを見ると、新しくできたスーパーで何かイベントとかそういうものが、できるチャンスがあるのであればぜひアプローチをしていただきたいなというふうに思いました。草津市は、新し

い方がどんどん増えている素晴らしい自治体ですので、そういう新しい方に向けてのチャネルを作っていただきたいというふうに思います。

あと、こないだコミュニティー支援センターで、朗読セミナーというものを2回連続で今開催中ですが、あつという間に定員が埋まりました。「読書ボランティア」と言ってしまうと、何となく寄ってこない人も、朗読セミナーという、寄ってくるというか、結果的に人前で何かを読むということに繋がるということでは、同じなのかなと思いますので、皆さんの日本語をちょっとブラッシュアップしてみませんかとか、何かそんなような形で、またセミナーというか勉強会的なものも仕掛けてみるのも何か一つなんじゃないかなというふうに思います。

また、最近CMを見ていると、オーディブル、きく読書、AIかなんかが読書をしてくれるような、そういう読書形態に人気があって、読書の形態が少しずつ変わりつつあるということも一つかと思しますので、そういったところも少し視野に入れながら、読書というものに対しての視点を養っていくというか、そういう気づきの場を作っていくということが何か大事なんじゃないかなと思っています。

あともう一つ、若い方に向けてのアピールといたしますか、若い人たちに伝えていくために、6月の27日と30日に子ども向けのイベントをしたのですが、27日の方はインスタグラムを使って宣伝をしてみました。30日の方はほかほかタウンだけでした。でも圧倒的に来る人数が違いました。本当にみんながインスタグラムを見てきたかはわからないですが、SNSの使い方をもう少し丁寧に見て、情報発信のチャネルを考えていくことはやはり試みて、うまくいかないこともあるかもしれませんが。図書館の方は、結構頑張っていてインスタグラムで広報されています。そういったところからも少し学びながら、ちょっとやはり情報発信の仕方も、研究が必要なんじゃないかなと思っています。

【委員長】

資料1で確認した昨年度の取り組みを踏まえた課題の一番目「若者の参加者をどのように増やせば良いか」へのコメントをいただきました。ありがとうございます。

例として挙げていただいた新しいスーパーは新しい戸建てが多い地区のようです。うまく場づくりに繋がっていくといいのですが、一方でそうした民間での場をどこまで市の事業として位置づけるか、調整や判断が求められてくるかもしれません。

民間での活動の広がりを期待する一方で、草津市立図書館は開館40年を経て改修も控えているとも伺っています。ただ、どのような場であっても、うまく講座修了生のネットワークづくりができていれば、そこから始まる活動もあろうかと思われれます。ですので、どこで何をするかは担い手となる皆さんのアイデアと意欲によるところで、この委員会や事務局はそれらを支える役割なのだろうと捉えています。

実際、今ご発言にあったインスタグラムでの情報発信についても、修了生のネットワークの中での運営であれば柔軟な投稿もできるかもしれません。いずれにしても行政が全て主催するのではなく、主催した講座の修了生を例えばこの委員会の部会やワーキンググルー

プなどにコアメンバーとして参加いただきながら積極的に動くといった工夫も可能かもしれません。

【A委員】

今、玉川小学校の読み聞かせボランティアを始めて、ちょっと問題点等、考えていることがあります。学校でお母さんたちにボランティアを募ると、やっぱり忙しくていらっしやなくて、なかなか読み手が集まらないし、やっぱり安全面からなかなか学校から許可いただくのがすごく大変で、難しいなと思ってまして、市の方のボランティアから、いろんなところに来てもらった方がスムーズかなと思いました。

あと老上西小学校はボランティアが活発だとおっしゃっていたのですが、お母さんたちがやっているわけではないと伺ったので、30代40代の方は働きに行かれていますのでボランティアは少なく、市の養成講座でこられた方は、活動場所がないっていうのがあるので、もうちょっと小学校とかの提携がうまくできたら、上手く行くかなと思いました。

【委員長】

ご相談があったりするのですか。

【A委員】

そうですね。学校内でボランティア募ってもなかなかいないっていうのと、この前3月は立命館の BohNo (ボーン) っていう食育のボランティアの方に来てもらって、学校に入れてもらったのですが、子どもたちはお兄さんお姉さんが大好きなので喜んでくれます。ただ、学校側は安全面が大事なので、どういう方が来るのかわからない場合、交渉するのに時間がかかる。

市の養成ボランティアということで、もうちょっと認知していただき、学校と教育委員会の方々と連携していただくと、もうちょっとスムーズにいけるかなと思いました。

【委員長】

BohNo は立命館大学の食マネジメント学部の学生が立ち上げた食品ロスなどの活動をしている団体です。先ほどから話題に上がったスーパーでの取り組みには入りやすいかもしれませんね。

【A委員】

彼女たちが作った絵本を読み聞かせしていただきました。

【H委員】

昨年度この会議に出席させていただいたときに、民生委員として来ていますが、仕事は学童保育の支援員をしているので、夏休みの時期に学童保育で、いろいろスケジュールを立てるときに、通常、読み聞かせはしていますが、いつもと違った先生とか人に読み聞かせしていただくのはまた違うので、スケジュールは各学童保育で決まっているかもしれないですけども、そういうところにも、声をかけていただくと来て欲しいというところはあると思うので、是非ともそこに1回挑戦してみたいと思います。

玉川小学校の読み聞かせの会には、私は玉川小学校内で仕事をしているので、いつも参加

させていただいて、前は子どもたち、かなりたくさん聞いてくれて、50名ぐらい来ていましたね。

あとポーノさんのときも見に行かしてもらって、ポーノさんと知り合いになって、夏にポーノさんに学童保育での読み聞かせを依頼したり、いろんなところに出向いていくと、いろんな人との繋がりができるので、やっぱり修了生も、なかなか読み聞かせの場ってというのはないっていうのが今ちょっと現状ですけど、いろんなところに行ったら、またそこから人と繋がって行って、いろいろと呼んでいただけるっていうのがあると思うので、できるだけ私たちが工夫をして、読み聞かせをしていただける修了生の活躍できる場をもっと作っていく必要というのをすごく感じております。

【I 委員】

学校教育関係ですけれども、社会教育とはもちろん繋がりがあって、地域の方でお世話になっていることもありますけども、それぞれの学校で、一定のネットワークがあるという形で地域の方が入っていますが、もう少し学校に入りやすいようにというお話もありましたので、確かにそうだなと感じました。ただ、所属の団体であるとか、ボランティアに加入されているとか、そういうようなことであれば、すごく学校に入りやすくなるとは思っているのですが、地域の社会教育の中で貢献していただいている方ということがはっきりすれば、すぐにでも学校に入っていただけるのではと感じさせてもらいました。

常盤の方も笠縫東の方も、地域の方でいろんな読み聞かせ等やっていたらいい方がいらっしやるので、そういう方が学校に入ってきていただけるのは、本当に地域に親しむという視点からも非常に学校にとってもありがたいことで、良い繋がりを持っていけるということでこの会には参加させていただいております。

【委員長】

今のお話について、委員長の立場を離れて個人的な感想を素朴にお示しさせていただくと、受け入れ側の事情もおありでしょうから、学校との連携には修了生の皆さんが主流になるのが効果的なのだろうという印象です。先ほどから担い手という言い方をさせていただいておりますが、担い手の方々と活動先とを事務局がつなぐことで、確かな実績が蓄積されることになるでしょう。先ほどF委員が令和4年の活動に対するコメントとしてご発言いただきましたが、「草津ではこういう読書ボランティアのことをやっていますよ」と、活動の背景を説明いただくことで、より安心して受け入れていただけるのではないのでしょうか。インターネットでの広報以外にも、チラシやポスターのひな形をつくることも可能かもしれませんね。日付を手書きで入れるようなものを作って活動している団体もよく目にします。その他にも汎用性が高いパンフレットなどもあるといいのかもしれない。

【J 委員】

法人の活動内容の性格上で、どうしても福祉関係の団体さんとの繋がりが多いのですが、実際うちでもその子ども食堂をしており、ボランティアな学生が少ないっていう感覚はなくて、意外と逆に多いと感じています。

ボランティアという部分でいうと、やはり市社協さんとか県社協に情報が集まって、そこから繋がれるパターンが多いですので、子ども食堂で言うと県社協がすごく働きかけておられるので、学生とつないでくれるのもありますし、直接学生さんから電話がかかってくることもあるのですが、例えば子ども食堂に読み聞かせでいって欲しいという特化した話ではなくて、その呼びかけをするときに、子ども食堂でしたら、メディアとかでもよく取り上げられているので、そういうキャッチーなキーワードを使うと、学生さんとしてもネットを見て探すので、例えば草津市ボランティアって検索をしてみましたけど、市社協さんが一番に来るし、草津市子ども食堂も、県社協さんが一番に来るという感じで、なかなか読み聞かせという言葉にヒットしていかない部分もあるとは思っています。

あと、インスタグラムを使われるのであれば、ハッシュタグとかを有効に使われて、そこでいろんなハッシュタグで読み込まれてもいいと思いますし、学生さんには特に、活動したらこういうふうになる、こういうイメージですよみたいな、思い描けるようなイメージを示すことも大事なことと思います。

また、スーパーさんですけど、CSRとかSDGsの取り組みということで、子ども食堂に毎年県社協を通じて寄付で商品券をくださったりするスーパーさんとか、すごく熱心に取り組まれているので、そういうところで今、二つお話があるのであれば、もっと広がるような形で他の店舗さんに声かけされるのも一つですし、さっき老上の新しいスーパーの話がありましたけど、私の所属している駒井沢町についても駒井沢、川原は開発が進んで子どもさんが増えている状況ですので、駒井沢にもスーパーがありますし、そこも子ども連れのお客さんがすごく多いので、そういうところに声掛けされるのも一つかなと思います。

【委員長】

県社協では「遊べる・学べる 淡海子ども食堂」という取り組みをこの数年にわたって精力的に広げてこられました。滋賀県に住んでよかったと思える人たちが増えればという思いで、当事者である子どもだけではなく、支える人たちもまた大切だとずっと説かれてこられています。

そうした動きに学ばせていただくと、草津市での読書ボランティアの取り組みも、一人ひとりがお互いの暮らしに関心を向ける中で、活動に携わる方々の存在が大事にされることを願っています。例えば、インターネットでの広報では活動の魅力をあらわすハッシュタグをうまくつけるなども工夫が重要となるでしょう。ただ、そうした創意工夫は当然事務局だけができるものではなく、関係する人たち全体で育てていくこととなるでしょうね。

【K委員】

本当に普通の一般の主婦ですが、草津では読み聞かせのボランティアっていうのは全ての小学校にあるのでしょうか。

【G委員】

活動があまりできてないところがあったりとか、すごく活発に活動しているところがあったりとか、すごく差があるとは私は認識しております。

【K委員】

皆で集まって意見交換するような場があればと思います。私の行っている小学校も、読み聞かせのボランティアがありますが、やはりお母さんが集まらない状態で、1年生から6年生まで各1人ずつお母さんが何とかいる状態で、選書も毎年します。読み聞かせしたいお母さんは幼稚園まではかなりいらっしゃるのですが、小学校に上がった途端に皆、されないといい、お仕事始める方もいらっしゃると思いますし、そういうので、やっぱりこの草津だと「読書ボランティア人材養成」という形なので、先ほどもおっしゃいましたように、名前を変えてみるっていうのも一つの手かなと。やっぱり主婦から見るとボランティア人材養成という名前だけで、これ受けたいけど、そのあとボランティアに参加させられるのではないかっていう、すごくそっちの方をまず、思ったりもしますし、名前を少し柔かく変えてみるっていうのも、一つの手かなとは思いますが。

あと、募集方法ですけど、私は草津の広報を見ましたが、家も草津の駅前のマンションの一つに入っており、うちはドサッと広報が送られてきて全部に投函されるのですが、草津駅前もいっぱいマンションがありますけれども、隣のマンションの方に聞くと、うちは入らないと。何で入らないのかよくわからないのですが、全部に入っているわけじゃないのかなっていう。それでそうなってくると、読まない方もかなりいらっしゃると思いますね。草津駅前のマンションって本当にすごく若い世代の方も多いですし、お子さんもすごくたくさんいて、学童に行かれてない方なんかはエンタランスでみんなゲームして遊んでいるようなお子さんの状態ですんで、南草津もマンション多いですね。で、すごく素敵に本を並べている、自習室のようなすてきなデザインのものも多くて、うちのマンションもすごく自由に使える部屋も多いので、もう何だったらそこで読み聞かせとかもできるのではないかなって。各マンションですごく綺麗な、広い部屋が今は用意されているようなマンションが多いので、理想を言うと、その下のマンションに住んでおられるお母さんたちで読み聞かせの人たちができれば、その下で時間潰すようにゲームしている子たちも、本読んでもらえたらいいのではないかなって思ったりもします。広報くさつが入ってなくても、そのマンションの下の掲示板とかにちょっとそういうスキルアップできますよみたいな感じのポスターとかチラシを貼ってもらえるだけで、お母さんと本当に時間がないので、なかなかその広報もらっても、じっくり見ない方も多いと思うのです。掲示板はしっかり見るっていうか、何かないかなっていうマンションの住人は特にそれは見ますので、そういうところにこういうボランティアとか読み聞かせのスキル上がりますよっていう情報があれば、もう少し若いお母さんも、目にする機会が増えるかなと思います。

【委員長】

今のお話を踏まえると、情報が行き届くために、講座名を工夫することも一つの選択肢かもしれません。もちろん、これまでの事業名は据え置くとしても、何かキャッチコピーや愛称を掲げると、より関心を引きつけやすくなるでしょう。一方で修了生の活躍を期待する反面で、修了生には強制的にボランティアさせられるわけではないという安心感もいるでし

よう。そこで、今日の資料1で確認した課題に戻ると、読書ボランティアの講座では読書ボランティアの知識やスキルを学ぶのではなく、例えば地域の子育て情報を知る機会になるなど、生涯学習への入り口として地域に触れる経験が得られることを伝えていくことも大切かもしれません。先ほどJ委員もおっしゃった通り、学生も含めて若者はボランティアしたくて始めるのではなくテーマに引きつけられて参加した活動で何か役割を得て続ける場合もあります。ですので、講座に参加した人たちを支える側に知恵が要るでしょう。

【E委員】

今の若い子本当に貧しいと思います。我々の時も貧しかったですよ、学生の頃は。でもその貧しさと今の子ども、若い子が抱えている貧しさは本質的にも変わってきたかなと思っています。それをどういう風に支えるということだけど、うちのまち協は、最低限ご飯食べさせてあげる。また、交通費は出すですよ。それはどっかで守ってあげないと若者もかかわれないですよ。その現実をまず事務局は知って欲しい。そういう形ではどういうふうなバックアップができるか行政サイドで工夫しましょうよ。地区は工夫しています。必ずその予算枠をつけないとイベントはしないようにしています。それをちゃんと我々もやりましょう。

もう1点、支えるっていうそういう部分だけじゃないと思います。雰囲気づくりも様々にね。就職にどういうふうに、要するに企業にどういうふうにつなげていくかっていうその手法もいますよ、もう最低限の支える部分は、今委員長に申しましたようにそこは我々ちょっとこの委員会で、ちょっと一歩前に行きましょうよ。そこからまずスタートしたいと思っています。修了生の活躍、活動というのはね、それはこういうネットワークの場をどんどん増やしていけば様々にできますよ。

もう1点、支えるとは何なのかっていうのをこの課題の中で若者の参加をどういう増やせばいいかっていうポイントの中に、支えるっていう文言をちょっと入れながら参りたいと思います。

【委員長】

今回の会議は9月の予定です。ここで講座の具体化をしていくことになるのですが、「読み聞かせ」以外で読み聞かせ活動を表現できる名前はないでしょうか。

【L委員】

せっかくボランティア人材の方がいらっしゃる中において、私はこの立場ですから、園でどのように来ていただくことができるだろうかってことをずっと考えて、今話を聞いて思ったのですが、やっぱり現場を知ってもらうということもすごく大事なことだと思うのです。その来られる方に関して、現場を巻き込んでいくといいますか、そういうことが必要なんじゃないかなというふうにすごく感じました。

さっきB委員がおっしゃるようなことで、うちの保育士にも講座をしてもらうのはすごくいいだろうなと思いましたし、例えばうちが参画できるのであれば、一つの研修としてボランティアを人材の方で習ったことまた、もちろん毎日読み聞かせをしておりますけ

ど、お互いのスキルアップのために保育士との講座を試してみるとか。さっき現場を知ってもらおうと言いましたが、読み聞かせを行う子どもを3歳から5歳とし、0、1、2歳には多分無理でしょうというふうに言っておきましたら、3歳から5歳児に関して皆様方も現場を知ってもらった中において、例えばなんですけど、定期的とか継続的にやらないと効果が出ないってことって結構あるのですよ。例えば私どもは、10月に読む本を決めているのですよ3、4、5歳児に。名作を毎年10月に読むことにしているのですよ。そうすることによって、その子どもの情緒っていうのがどこまで進んだからっていうのがわかるのですよね。

ですから、例えば、うちなんか玉川学区でありますし、立命館も近いですよ。そういう部分において学生さんたちがもう継続的に1年間のうちに、第何週目の第何曜日には必ずこのボランティアの読み聞かせがあるというふうに受け入れて、ストーリーを作って、今年はこの本を読んでいくとか、子どもたちにとってそのストーリー的なことを、本当に若い学生さんが来られたら子どもたちは喜びますもんね、本当に喜ぶので、そういう部分においてはもう定期的、継続的、ファンをふやすみたいな形っていうのは非常に大事になってくるのではないかなと。例えばうちの園で設けるとしたら、その園ではこんなことをやっていて、学生さんがこうやって来て1年間を通じてこういうふうに来て、なんかめっちゃ楽しい時間を過ごしているらしいよっていうようなことを、やっていく。

ですから今、非常に広く浅く、お話を園ということにおいてさせていただくことにおいてならば、狭く浅くアプローチしていただいたらっていうようなことで、ずっとそのプレゼンもそうですよね。こんなことをやっていきますというも含めて、先ほど、E委員がおっしゃったように、例えば園はその読み聞かせが終わった後に給食を提供します。一緒に給食を食べて帰ってください、というようなことができたりするのではと考えたり、そういう形で、ボランティア人材の方々が1つのチームを作って、主体的に活動するような場を園としてできないかなあとか。

また、子育て広場もやっています。普段、園に来られてないお子さん方に月1回どうぞいつでも来てくださって言って、保育士が2人待機して、来ていただいているということもやっています。おもちゃを置いたりとか、子育て相談を受けたりとかいうことをしているのですけども、そういう方々も非常に欲してらっしゃるので、そういうところもできるのではないかなということでもあります。

【委員長】

今回は本というものが持っている魅力や価値に気づかせていただきました。そして最後のお話では1年間の流れに上手く乗せることが大事なのだと確認できました。

繰り返しですが次の会議は9月です。議題としては講座の内容や方法についてなのですが、受講生の講座修了後の仕掛けとして、さらなる活動の継続や発展について、委員の皆さんでぜひアイデアがある方、例えば7月の末ぐらいをめぐりに、事務局の皆さんにお寄せいただけますでしょうか。例えば講座の名称や広報先などです。その他にも企画を具体化する上でご協力いただける方がいらっしゃいましたら、現時点ではそういう枠組みはありま

せんけれどもワーキンググループや作業部会といった形で運営にご参加いただければ幸いです。その場合、本会議として招集せずに、場合によってはお茶飲みとかしながら懇談して具体化するような動きもあってもいいのかもしれませんが。

少なくとも本日の資料 2 について、講座の実施についてはお認めいただけたかと思われまます。その上で、多くの皆さんの思いを地域での日常の動きにうまく重ねていくためにも、改めて具体的な取り組みへの手がかりをアイデアとしてご提案いただきますようお願いいたします。本日の充実した議論とあわせて、9月の会議で具体化できればと存じます。

【副委員長】

皆さん、活発なご意見を出していただいて、どれもごもっともというふうに思いました。

やはり次回の開催の名称とか、広報の場所の話とかは、この場でぱっと考えるだけじゃなくて少し日常的に考えておくことも必要と思った次第で、僕の方でもアイデア出るかなというふうに思います。

先ほどおっしゃられたように、活動するということ、ボランティアの方の修了生の活動につなげる話でいうと、定期的・継続的が一つのワードというかポイントになると思います。逆に言うと、そういうボランティアの団体を支援するときのアドバイスとして、その辺の観点があるといいと思います。

私事ですが、大学の卒業生と定期的にボードゲームで遊ぶ会をしておりますが、月に1回決めてやっていると、この日は参加できないけど来月もあるので、今回参加しなくても次があるという見通しが立って、安定して参加者が集まったりするので、そういうのを少し考えてみてもいいのではと思いました。

【委員長】

今日は昨年度令和4年度の取り組みと、令和5年度の動きについて皆さんに積極的にご検討いただきました。先ほど仕掛けという言い方をしましたけども、読書ボランティアを通じた生涯学習の推進のための仕組みは一定安定してきているように思われます。むしろ、その蓄積が形骸化しないよう、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてくる中で、新しい日常での動きにどう関連づけられるか、今年はその試金石となるのかもしれませんが。よりよい活動へとつながるように、引き続き皆さんの積極的なご参画とご協力をいただければと存じます。

3. 報告事項

近畿地区社会教育研究大会[滋賀大会]について

以上